



2020年 9月4日 金曜日  
(令和2年)

きょうは何の日

くしの日、関西国際  
空港が開港(1994年)



# 知・技の創造

ものづくり大学発

▷58◁

1995年の阪神・淡路大震災では、多くの市民が災害ボランティアとして被災者支援に参加したことから、この年は「ボランティア元年」と呼ばれている。2018年に西日本豪雨や北海道胆振地震により甚大な被害が出た。この時、防災関係者との合会で、「今年(2019年)は将来、『災害元年』と呼ばれるかも」と話していたのを覚えている。そして、昨年(2018年)の台風19号は、大雨、暴風による関東甲信越、東北地方まで広範囲に爪痕を残し、今年も九州や中部地方に集中豪雨が発生し、大きな被害が生じている。

99年4月、内戦状態にあったソマリア自治州の戦況が悪化し、近隣諸国に約50万人の難民が流出した。この状況に対してNGOが専門分野で協力する「キャンプジャンプ」が用いられる。しかし非

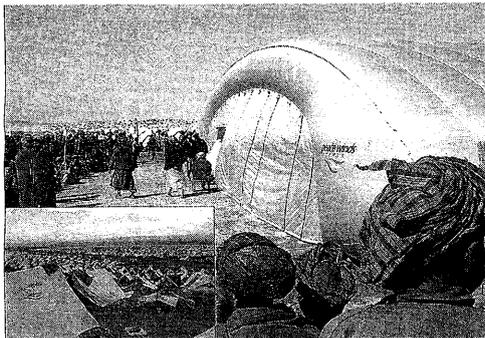


## 国際支援から国内災害へ

今井弘 建設学科教授

いまい・ひろし 三重大学博士後期課程修了、一級建築士。設計事務所、NGO、JICA、建築研究所、防災科 学技術研究所を経て、2019年より現職。主に設計、製図、構造物の授業を担当。

バルーンシエルターは、海外では01年インド・プジ地震、02年アフガニスタン国内避難民キャンプで使用し、国内災害では04年新潟中越地震時に避難所として、約400人の人々が2週間寝泊まり



アフガニスタン難民キャンプで (2002年)

通した活動を行ってきた。中でも国際協力NGOに在籍した6年間は、現在の日本の緊急人道支援の礎になる時期であった。つかけとなり、そして緊急支援にも安心感とプライバシー

「バルーンシエルター」を開発した。空気膜構造であるバルーンシエルターは間口22mと大型で収容人数80人であるにも関わらず、本体が約60kgと軽量であり緊急支援スタッフと身も持ち込むことが可能である。また熊本地震でも使用された。そして今、かつて在籍していた国際NGOの国内での被災地の活動を聞き、私自身、学生とともに一助を担える活動ができたと考えている。